



冬季死亡災害ゼロ100日運動通信

【運動期間：平成26年11月21日～平成27年2月28日】

第4号

1月号

地域

今のところ死亡災害“ゼロ”、目標達成に向け引き続き活発な災害防止活動を!!



冬季死亡災害ゼロ100日運動が11月21日から2月28日までの期間で展開中ですが、1月末時点では死亡災害が“ゼロ件”となっています。

引き続き、活発な災害防止活動を展開のうえ、無災害を達成させましょう。



岩手

労働局からの緊急要請!! (H27.1.8)

平成26年の岩手県内における労働災害は12月末現在の速報値で前年同期比15人増の1346人となり、5年連続の増加となっています。また、平成26年の死亡者25人のうち10人が1月～2月に発生し、さらにそのうち冬季特有災害も多数(スリップによる交通事故3人)発生していたところでしたが、今季は例年より早い降雪・積雪に加えて、12月半ばから厳しい寒さが続いていることもあり、路面等の凍結による転倒災害が増加傾向にあるなど、今季は昨年以上に重篤な労働災害の発生が懸念されるところです。

つきましては、労働災害の多発に歯止めをかけるためにも、特に冬季における「転倒災害防止対策」「交通労働災害防止対策」を重点的に取り組むようお願いいたします。(裏面のリーフレットもご参考にしてください：岩手労働局のホームページからもダウンロード可能です。)

最近の岩手県内の死亡災害事例◆

1月上旬、納品のため社用車で東北自動車道を走行中スリップ事故を起こし中央分離帯に衝突、追い越し車線で停車していたところに後続の大型トラックが追突した。

全国

「STOP! 転倒災害プロジェクト2015」が始まります



平成26年の労働災害は、上半期時点で大幅な増加となったことから、昨年8月に「労働災害のない職場づくりに向けた緊急要請」が行なわれる等、各種対策が推進されたところですが、結果的に死亡災害、死傷災害ともに前年を下回るには至っていない状況となっています。また、このような状況では、平成25年にスタートした第12次労働災害防止計画の目標(5年間で15%以上減少など)を達成することは困難となっています。

このため、計画中間年を迎える平成27年においては、休業4日以上死傷災害の2割以上と、労働災害の種類(事故の型)の中で最も件数の多い転倒災害に着目することとなりました。特に、高年齢労働者が転倒災害を発生させた場合は、その災害の程度が重くなる傾向にあるため、今後、労働力人口の高齢化が一層進行すると見込まれる中、事業場における転倒災害防止対策の徹底を図ることは極めて重要と考えられます。

本プロジェクトは、職場における転倒リスクの総点検と、必要な対策を講ずることにより、職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境を実現することを目的として実施するものです。

期間

平成27年1月20日から12月31日まで。

なお、プロジェクトの実効を上げるため、昨年積雪や凍結による転倒災害が多発した2月、全国安全週間の準備月間である6月を重点取組期間とする。

主唱者

厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

実施者

各事業場

実施者(各事業場)の実施事項

(1) 重点取組期間に実施する事項

2月の実施事項

ア. 安全管理者や安全衛生推進者が参画する場(安全委員会等)における転倒災害防止に係る現状と対策の調査審議

イ. チェックリストを活用した安全委員会等による職場巡視を通じた、職場環境の改善や労働者の意識啓発

6月の実施事項

職場巡視等により、転倒災害防止対策の実施(定着)状況の確認

(2) 一般的な転倒災害防止対策

作業通路における段差や凹凸、突起物、継ぎ目等の解消

4S(整理、整頓、清掃、清潔)の徹底による床面の水濡れ、油污等のほか台車等の障害物の除去

照度の確保、手すりや滑り止めの設置

危険箇所の表示等の危険の「見える化」の推進

転倒災害防止のための安全な歩き方、作業方法の推進

作業内容に適した防滑靴やプロテクター等の着用の推進

定期的な職場点検、巡視の実施

転倒予防体操の励行



次のページに続く

実施者（各事業場）の実施事項（続き）

(3) 冬季における転倒災害防止対策

気象情報の活用によるリスク低減の実施

- ア. 大雪、低温に関する気象情報を迅速に把握する体制の構築
- イ. 警報・注意報発令時等の対応マニュアルの作成、関係者への周知
- ウ. 気象状況に応じた出張、作業計画等の見直し

通路、作業床の凍結等による危険防止の徹底

- ア. 屋外通路や駐車場における除雪、融雪剤の散布による安全通路の確保
- イ. 事務所への入室時における靴裏の雪、水分の除去、凍結のおそれのある屋内の通路、作業場への温風機の設置等による凍結防止策の実施
- ウ. 屋外通路や駐車場における転倒災害のリスクに応じた「危険マップ」の作成、関係者への周知
- エ. 凍結した路面、除雪機械通過後の路面等における荷物の運搬方法、作業方法の見直し



厚生労働省のホームページも活用ください！

一関監督署管内の労働災害発生状況

一関監督署管内の労働災害は長期的には減少傾向にありますが、最近では2年連続で増加し、平成26年は12月末速報値で前年同期比で僅か2件の減少に留まっています。平成26年は商業で大きく減少した一方で製造業での増加が目立ちました。特に、機械災害（挟まれ・巻き込まれ等）の多発が要因としてあり、これらは基本的なルール（「隔離の原則」「停止の原則」）を守れば防げるはずのものでした。

また、経験期間別では5年未満までの人だけでちょうど全労働災害の半分を占めていますので、「安全教育」が労働災害を発生させないポイントにもなるかもしれません。

労働災害発生人数（休業日数4日以上）（12月末統計）
合計 162人（前年同期比 - 2人）

- ・製造業 48人（前年同期比 + 11人）
 - ・食料品 12人（前年同期比 + 8人）
 - ・金属 12人（前年同期比 + 7人）
- ・建設業 32人（前年同期比 - 1人）
 - ・土木工事業 6人（前年同期比 - 4人）
 - ・建築工事業 15人（前年同期比 - 1人）
- ・道路貨物運送業 13人（前年同期比 - 6人）
- ・林業 7人（前年同期比 - 3人）
- ・商業 11人（前年同期比 - 15人）
- ・社会福祉施設 9人（前年同期比 + 3人）

どんな災害が多い？（「事故の型」別）

第1位「転倒」	19%
第2位「挟まれ・巻き込まれ」	14%
「墜落・転落」	14%
第4位「交通事故」	13%
第5位「動作の反動・無理な動作」	12%
第6位「切れ・こすれ」	10%

経験期間別

第1位「1年以上5年未満」	30%
第2位「1年未満」	20%
「5年未満までの合計」で50%を占めている。	
業種によっては経験年数が長い者での災害が多い業種もある。（林業など）	

最近の一関監督署管内の主な災害事例

【製造業】菓子生地を薄く均す機械のホッパー内に投入した生地の中に異物を見つけ竹串で取り除こうとした際、ホッパー下のローラーに指を巻き込まれた。[指3本切創]

【製造業】粉製品の袋詰作業中、機械のモーターが停止したため、Vベルトを両手で触り、触ったはずみで動かそうとしたところ、急に動き出して両手の指をVベルトとプリーに巻き込まれた。[指多数の挫滅創]

【建設業】ローリングタワー（2段式）に乗って雨樋取付中、車輪止めをしていなかったために振動でローリングタワーが動いてしまっただけで段差によってローリングタワーが転倒し、一緒に墜落した。[鎖骨骨折]

【運輸交通業】洗車場で凍結路面で滑って転倒した。[頭部打撲等]

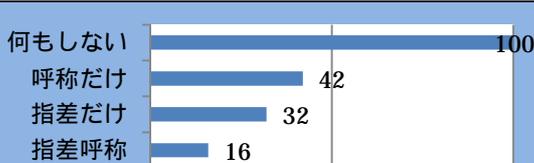
【林業】想定外の風によって伐倒方向が45度ずれ、伐倒木（杉）が地面に接触した際に伐倒木の先端2m程が折れて飛来し、別の伐倒者に激突した。イヤーマフ着用により合図が聞こえなかった。[肋骨骨折、肺に穴]

【通信業】バイクで配達中、下り坂の凍結路面で左折しようとした際、スリップして転倒した。[肋骨骨折]

☞ 同種作業がある場合には、対策を考えましょう!!



指差呼称の効果



【説明】何もしない時のミスを100とすると、指と声をかければ16までミスを下げられます。あるいは、手がふさがっている場合でも、声をかければ半分以下（100が42）までミスを防げます。買い物をしたとき、「〇〇円のお釣りで」と話されながらお釣りが返されますが、これもミスを防ぐための取組みの1つ（呼称）です。朝のイベント時だけの実施ではなく、仕事の流れの中でこそ指差呼称を多用していきましょう。

その他の最近のトピックス

平成27年1月9日付け基発0109第2号「高気圧作業安全衛生規則の一部を改正する省令の施行等について」

【内容】高圧室内業務及び潜水業務に関し、呼吸用ガスとして窒素及びヘリウムを含む混合ガス等の使用、酸素減圧の実施等技術の進展等があったことから、これに対応するために改正。

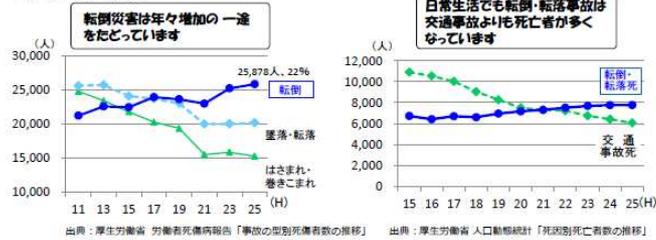
平成26年12月1日に公布及び告示、平成27年4月1日から施行及び適用。

この資料（運動通信）は岩手労働局のホームページからもダウンロード可能です。

作成者：一関労働基準監督署（平成27年1月下旬作成）

職場での転倒事故を減らしましょう！

作中に転倒して4日以上仕事を休む方は、年間26,000人ほどで、労働災害の種類では最も多くなっています。特に高齢者が転倒した場合は重症化する割合が高く、日常生活での不慮の事故による死因の中でも、転倒・転落死は交通事故死を超えています。



あなたの職場では、このような災害が起こっていませんか？

業種	災害の発生状況	業種	災害の発生状況
自動車製造業	 乗車のため会社の事務所から駐車場へ向かう途中、濡れた床面に足を滑らせ転倒し、尻もちをついた。	飲食店	 重い容器を抱えた状態で従業員通廊の階段を降りていた時に、足が足元で階段を踏み外してバランスを崩し転倒した。
ケガの程度	軽傷	ケガの程度	軽傷
休業1カ月		休業2カ月	
対策のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の道路を除草する、融雪剤を散布する 警道や凍結路面に滑りにくい靴を履く 足元が見えにくい箇所は照明を設置して注意を促す 身体を凍打たないよう、クッション性のある帽子・衣類を着用する 	対策のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 重い容器を小分けにするなど足元が見えるようにする 大きな荷物を運ぶときは手車を使用する 危険箇所には表示して注意を促す 階段の昇降はゆっくりと心掛ける
業種	災害の発生状況	小売業	災害の発生状況
小売業	 厨房で揚げ物をパックに詰めるため、容器を握ろうと前方にかかると、床に飛び散った油で滑ってバランスを崩し転倒した。	小売業	 バックヤードで商品の検品中に、レジのヘルプ連絡を受けて店内に向かう途中、台車に足を引っかけてバランスを崩し転倒した。
ケガの程度	軽傷	ケガの程度	軽傷
休業10日間		休業1カ月半	
対策のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 作業の都度、床の油などは放置せず取り除く 滑りにくい靴底の履物を着用する 	対策のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 通路に物を置かない、整理・整頓をする 作業通路を定め、定期的に職場を巡視する 危険箇所には表示して注意を促す

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署 2015.1

冬の転倒災害防止のポイント

積雪・凍結などの転倒災害のリスクが高くなる冬期間は、以下の対策が特に重要です。

◇天気予報に気を配る

寒波が予想される場合には、労働者に周知し、早めの対策を実施しましょう。

◇時間に余裕をもって歩行、作業を行う

天候による交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出勤するようにし、落ち着いて作業をするように心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を付けて歩くようにしましょう。

◇駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などに注意する

駐車場内、駐車場から職場までの通路を確保するため、除雪や融雪剤の散布を行います。また、出入口では転倒防止用マットを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさ（照度）を確保しましょう。

◇職場の危険マップの作成、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。



転倒防止に役立つ靴と保護具を活用しましょう

雪道を安全に歩くには、靴選びが大事！

<靴選びの3つのポイント>

- ▶防滑性：靴底が滑りにくいこと
(やわらかいゴム底のものは、ゴムがすり減っていないかもしっかり確認しましょう)
 - ▶撥水性・防水性：水分が靴の中に入り込まないこと
 - ▶保温性：靴の中を温かく保てること
- このほかにも、靴の重量やバランス・屈曲性、つま先の高さもポイントになります。



柔らかいゴムを使った靴底は、路面に対する密着力が強いため滑りにくくなっています。

足のサイズに合った靴を選びましょう！

サイズが小さい靴：足指が自由に動かしにくく、バランスを崩したときの踏ん張り力が弱くなる
サイズが大きい靴：歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかとが足の動きに追いつけなくなる

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署 2015.1

STOP！転倒災害プロジェクト2015

～あせらない 急ぐ時ほど落ち着いて～

転倒災害は、どのような職場でも発生する可能性があります。職場での転倒の危険性は、働くすべての人が問題意識を持って原因を見つけ、対策をとることで減らすことができます。「転倒」という身近なテーマから職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境の実現に向けて、「STOP！転倒災害プロジェクト2015」を開始します。

【主唱者】

厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会

【プロジェクト実施期間】

平成27年1月20日から12月31日まで

〔プロジェクトの効果を上げるため、積雪や凍結による転倒災害の多い2月と全国安全週間の準備月間である6月を重点取組期間とします。〕

「STOP！転倒災害特設サイト」を開設します！

転倒災害の現状からその対策まで、事業場での取り組みに役立つ情報を集約してご提供します。

<厚生労働省 ホームページ>

「STOP！転倒災害プロジェクト2015」で検索

STOP! 転倒 検索

1 転倒災害防止に向けたさまざまな対策の紹介

転倒災害の防止に効果的であった事業場の取組事例、転倒災害防止に役立つ保護具や用具などを紹介しています。



2 転倒予防の知識養成セミナーの紹介

転倒を防ぐための実習を交えて基礎知識を身につけるセミナー、転倒災害防止の基本となる「4S活動」や「KY活動」をテーマとした研修を実施します。

職場の安全、安全週間に関する情報はこちらでも発信しています！
中央労働災害防止協会 <http://www.iisha.or.jp/>

2015.1

あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/>
1 身の回りの整理・整頓を行っていますか 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2 床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3 段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
4 安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
5 ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6 職場巡視を行い、通路、階段などの状況をチェックしていますか	<input type="checkbox"/>
7 荷物を持ちすぎで足元が見えないことはありませんか	<input type="checkbox"/>
8 ポケットに手を入れながら、人と話しながら、携帯電話を使いながら歩いていませんか	<input type="checkbox"/>
9 作業靴は、滑りにくさを考えて選んでいますか	<input type="checkbox"/>
10 ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！

冬季における転倒災害・交通労働災害防止について

冬季における転倒災害の防止

岩手県内において、平成26年1月、2月に発生した転倒による労働災害は、1年間に発生した転倒災害の約1/3を占めています。

今冬の12月も、積雪・凍結路面での転倒災害が多発しています。

平成26年12月の積雪・凍結路面での転倒災害事例

業種	性別	年代	負傷部位等	災害の概要
運輸交通業	男	50代	頭部打撲	出発点呼の後、担当車両に乗込むために事務所を出たところ、路面が凍結していて、滑って転倒した。
接客娯楽業	女	50代	骨折	店舗裏に出たところ、路面が凍結していて、滑って転倒した。
商業	女	40代	ひざ打撲	朝礼の後、倉庫に向かっていたところ、路面が凍結していて、滑って転倒した。
建設業	男	60代	頭部打撲	現場の除雪作業中、降雪した路面が凍結していて、滑って転倒した。

冬季における転倒災害防止対策は、別途作成のリーフレット「冬季の転倒災害を防止しよう！」を参考に取組みをお願いします。

また、積雪・凍結路面等での転倒防止対策を適切に行うため、次のチェックリストで点検をお願いします。

転倒災害防止のためのチェックリスト(事業主・管理者用)

	チェック項目	はい	いいえ
1	安全衛生委員会などで、積雪・凍結による転倒災害防止対策を組織的に検討し、具体的な対策をとっていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	気象情報を迅速に把握し、積雪・凍結が予想される場合に対応できる連絡体制を構築していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	滑りにくい履物を着用させていますか？ また、その着用状況を確認していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	労働者からの聴き取りなどにより、危険マップを作成していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	危険マップで特定された危険個所の「見える化」を図っていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	除雪担当責任者を指名するなど除雪作業の体制は万全ですか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	通勤や屋外作業について、ゆとりをもって行うことができる体制になっていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	労働者に対する安全教育や運動指導を行っていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
「はい」の項目はいくつありましたか？			
「いいえ」の項目は早急に改善しましょう！			

冬季における転倒災害・交通労働災害防止について

冬季における交通労働災害の防止

岩手県内において、平成26年1月と2月に、交通労働災害による死亡災害が続発しました。

平成26年の1月と2月の交通労働災害による死亡災害事例

業種	発生日	性別	年代	災害の概要
商業	1月	女	70代	新聞配達中に道路を横断していたところ、軽貨物自動車に轢かれた。
商業	1月	男	20代	自動車で行中、凍結路面でスリップしセンターラインをはみ出し、バスと正面衝突した。
商業	1月	男	30代	自動車で行中、凍結路面でスリップしセンターラインをはみ出し、対向車と正面衝突した。
清掃・と畜業	2月	男	20代	軽ワゴン車で走行中、圧雪状態でスリップし、対向車と正面衝突した。

積雪・凍結路面でのスリップが重篤な災害の原因となっています。

● 積雪・凍結道路のスリップ事故の要因

- ・ 速度の出し過ぎ
- ・ 急ブレーキや急ハンドルなどの操作ミス
- ・ 路面状態を考慮した運転をしていない など

● 事故防止のポイント

積雪・凍結道路でのスリップは、

- ・ 路外逸脱による、道路下や河川への転落
 - ・ 対向車線へのはみ出しによる、対向車との正面衝突
- など、重大な事故につながりやすく大変危険です。

運転者は、スリップを防止するため、

- ・ カーブの手前で十分に減速する
- ・ 路面状態を把握し、適した速度で走行する
- ・ "急"のつく操作(急ブレーキ、急ハンドル、急加速)をしない

などに努めることが大切です。

また、走行中スリップしたことに驚いて慌てて急ブレーキをかけたため、さらに大きくスリップするケースも多いので、冷静かつ的確な操作が求められます。

● その他

「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づき対策を講じてください。